

日銀支店長が語る

# 経済よもやま話

## 第10回 東北観光の魅力



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

### 私の紅葉巡り

東北地方に赴任してから観に行きたいところは沢山あるのだが、その一つは紅葉だった。東北地方の紅葉がきれいなのは、広葉樹が多いほか、気温差が大きいからだと言ったことがある。また、東北地方は南北に長く、標高差があるので、長い時期楽しめるとの解説も聞いた。

昨年の夏は猛暑だったので、秋が来るのだろうかと思っていましたが、季節は確実に巡るもので、10月中旬から紅葉情報は少しずつ出だした。そうすると、居ても立っても居られずに、紅葉のきれいな所を巡り始めた。そして、ほとんどの週末を紅葉巡りに費やした。

巡ったのは、日銀仙台支店の業務区域である宮城県、岩手県、山形県で合わせて10カ所程度。いずれの場所も整備されていて、とても癒された。

その中で、圧巻だったのがやはり「鳴子峡」(宮城)だろう。11月3連休の初日に車で行ったのだが、ちょうどその時期は紅葉の真っ盛りだったので、様々なテレビや新聞で大きく取り上げられた。もちろん、それを見ると期待が高まるのだが、おそらく渋滞するのだろうと思っていた。

実際のところは、仙台から鳴子峡まで順調であれば1時間半程度で到着するのだが、その日は何と5時間もかかった。でも、着いてみると、様々な色に彩られた木々に、日が差し込んでいて、何とも言えない絶景だった。そして、鳴子峡には鉄道が通っていて、紅葉の時期はゆっくりと進んでくれているのが見えた。

### 観光における東北の自然の魅力

こうした経験を踏まえて、東北の林業について

少し調べてみた。そうすると、当然のことだと思うが、都道府県別にみた森林面積と国産材生産量(令和4年)は、いずれも全国10位の中に東北の5県が入っている。

それだけでない。やはり観光コンテンツとしてはかなり魅力的だと思うので調べてみたら、インバウンドにとっては、「四季の体感」のコト消費が東北観光の大きな魅力になっているのだ。

観光白書(令和元年版)では、「コト消費」について、体験した場合の訪問率が体験の有無に関わらない全体の平均の何倍になるか算出しているのだ。すなわち、「コト消費」が目的地選択にどの程度寄与しているかを分析している訳だ。「コト消費」は様々なものが挙げられているが、そのうち「四季の体感(花・紅葉・雪等)」の分類では、何と岩手県が1位、青森県が2位、秋田県が3位、山形県が5位となっているではないか。

やはり「日本の四季」は日本人にとっては当たり前のものなのかもしれないが、海外の人にとっては大きな驚きであり魅力であることが、再確認されたということではないか。さらには、日本人にとっても、「日本の四季」は旅行をする時の大きなインセンティブでもあると思う。

皆さん、「紅葉」で「高揚」されましたか？

### 岡山 和裕氏 プロフィール

1969年(昭和44年)生まれ  
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任